

Mornig Performance of Organ music

@

BACH GROVE, TSUKUBA

朝のオルガン音楽鑑賞会

J.S. バッハのコラール作品と自由作品

“Komm, Heiliger Gesit” (Fantasia) (BWV 651)
「来たれ、聖霊」(ファンタジア)

Sonata 5 in C (BWV 529)
トリオ・ソナタ ハ長調

Preludium et Fuga in a (BWV 543)
前奏曲とフーガ イ短調 他

演奏：宮本 とも子

お話：石田 友雄

全席自由 2,000円

6月25日(金) 午前10時30分～11時45分

バッハの森 記念奏楽堂

コロナウイルス感染防止対策として先着順予約制とさせていただきます。

お申込みはEメール: info@bach.or.jp へお願いします。

(裏面のQRコードからメールでお申込みいただけます)

つくば市教育委員会 後援

バッハの森「オルガン音楽研究会」と 「朝のオルガン音楽鑑賞会」

バッハの森では、2009年9月より、「オルガン音楽研究会」として、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685年～1750年）が、コラールを基に作曲したオルガン作品を学んでまいりました。

これまでに、「クラヴィア・ユーブング第3巻」、「オルゲルビュッフライン」、「シュープラー・コラール集」などを取り上げ、現在はバッハが最晩年にまとめた「ライプツィヒ自筆譜オルガン曲集」に取り組んでおります。

16世紀に宗教改革をしたマルティン・ルターが、それまでラテン語で歌われていた讃美歌を、民衆の言葉、ドイツ語で歌うようにして以来、民衆の愛唱歌として、多数のコラールが作詩、作曲され、優れた音楽家たちがコラールに基づく数々の作品を作曲してきました。このようにして、ルターから約200年間に発展したコラール音楽は、バッハの創作活動の原点になりました。

バッハの森の「オルガン音楽研究会」では、まず講師の石田友雄先生（筑波大学名誉教授）が作成された、バッハのオルガン作品の題材であるコラール全節の原典ドイツ語と日本語の対訳を講読しながら、解説を聞き、さらに対訳に基づいて石田先生が訳詞した日本語の歌詞をオルガン伴奏によって斉唱します。こうしてコラールを実際に味わう貴重な体験をした後に、20世紀の巨匠、ユルゲン・アーレントがバッハの森記念奏楽堂に建造したパイプ・オルガンによって、バッハのコラール作品の演奏を、宮本とも子が担当して参りました。

コラールの歌詞内容を理解した上でバッハのオルガン・コラールに接してみると、バッハがいかに巧みにコラールの意味することを音楽で表現しているかが分かります。しかも、コラール作品と自由作品を組み合わせると、コラール作品の魅力になお一層の光が当てられることが分かってきました。

今回は、「ライプツィヒ自筆譜オルガン曲集」から3曲と自由作品を組み合わせ、約1時間の「オルガン音楽鑑賞会」プログラムを組みました。なお、会の冒頭、石田先生には、演奏されるコラールの概要を短く解説していただきます。天井高12メートルの木のぬくもり豊かなバッハの森記念奏楽堂で、初夏の朝のひと時、オルガンの響きを体一杯に感じていただけたら幸いです。

演奏担当 宮本とも子



バッハの森のパイプオルガン
独ユルゲン・アーレント工房製作（1989年）
2段鍵盤 + ペダル
メカニカルアクション
19ストップ

宮本とも子 略歴

1976年以来、クラヴィコードを手元楽器としながら、アメリカ、ヨーロッパ、日本で歴史的オルガン、歴史的建造法に基づく楽器で演奏活動をしてきた。2009年以来、バッハの森でコラールの生まれた文化背景を学び、「オルガン音楽研究会」で演奏を担当している。2010年にCD「クラヴィコードの世界～秘められた音楽領域を探る～」浜松市楽器博物館コレクションシリーズ 23、2017年にCD「バッハの森からの贈りもの～オルゲルビュッフライン～」、2018年にCD「Soli Deo Gloria～J. S. バッハ：クラヴィアユーブング第3巻～」をリリース。いずれもレコード芸術特選盤。

■お申込み・お問合せ

一般財団法人 バッハの森

茨城県つくば市東光台 2-7-9

<http://bach.or.jp>

メール info@bach.or.jp

Tel. 029-847-8696

※ お申込みはメールから ➡

